

氏名	板 野 徹
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1722 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	慢性肝障害とくに肝硬変症における胃粘膜障害発生機序に関する 検討 — 胃粘膜内ガストリン、ソマトスタチン活性および胃粘膜血流 を中心に —
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 木村郁郎 教授 中山 沃

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒト肝硬変症患者および四塩化炭素慢性肝障害ラットを対象とし、慢性肝障害時の胃粘膜障害発生機序を検討した。肝硬変症患者の内視鏡所見でびらん、消化性潰瘍等の粘膜欠損を有する頻度は78.1%と高率であり、K_{icg} 値の低下した症例に高頻度であった。胃粘膜内ガストリン活性は粘膜障害のない肝硬変症で増加し、胃粘膜血流は体部、幽門部ともに肝硬変症で低下していた。慢性肝障害ラットでは胃液分泌量の亢進と、総酸度およびペプシン活性の低下を認め、胃粘膜内および血清ガストリン活性は増加し、胃粘膜内ソマトスタチン活性と胃粘膜血流はともに低下した。以上より、ヒト肝硬変症に高頻度に合併する胃粘膜病変の発生原因として、攻撃因子である酸、ペプシン分泌およびそれに関連したガストリン、ソマトスタチン活性等の影響は少なく、防御因子の1つである胃粘膜血流の低下が強く関与していると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はヒト肝硬変症患者および四塩化炭素慢性肝障害ラットを対象とし、慢性肝障害時の胃粘膜障害発生機序を検討した結果ヒト肝硬変症に高頻度に合併する胃粘膜病変の発生原因として、攻撃因子である酸、ペプシン分泌およびそれに関連したガストリン、ソマトスタチン活性等の影響は少なく、防御因子の1つである胃粘膜血流の低下が強く関与していることを明らかにした価値ある業績である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。